

7月の「どんぐりsカフェ」から 新鮮な感覚で魅力あるNTの未来像提案

「都市づくりパブリックデザインセンター」主催、国交省・春日井市後援の「第21回まちづくり・都市デザイン競技」の入賞5作品が6月に発表された。その中の「春日井市長特別賞」を受賞した「Lynx 高蔵寺」メンバーの山上健氏（山上建築設計）による「受賞案をもとにNTセンター地区の未来を考える」と題する講演会が7月20日、東部ほっとステーションで行われた＝写真。

受賞案は、春日井市が平成28年度に策定した「高蔵寺リ・ニュータウン計画」を大前提に役員会から（7月20日）

●規約に基づき、役員互選により藤城会長と寺島・明賀両副会長の留任が決まった。前期と同じ執行部態勢で、会員の減少・高齢化という厳しい課題に、さらに1年取り組むことになった。●11月の「どんぐりsカフェ」に予定していた「古本市」を取りやめることを決めた。貴重な資金集めの活動だったが、古本集めや保管、売れ残った本の処分に関するなどの問題があった。会場の「ほっとステーション」は春日井市が市民団体の支援のため借り上げている公共の場所で、そこで販売活動することに疑問があるという指摘も出ていた。「古本市」に代えて、巡回バスや相乗りタクシーなど「足」をテーマにした勉強会を開くことを検討することになった。●経費節約のためホームページを停止し、アメログやライブドアなど無料のブログに代えることになった。広告が貼り付けられるなど煩わしいところがあるが、情報発信力はほぼ維持されるという。「古本市」や「夏祭りの夜店」などの資金集めの活動がなくなり、経費節約の必要はさらに強まるだろう。（明賀 雄二）



したもので、単なるアイデアや提案ではないことが最大の特徴である。作品は大きく3つの提案を軸に展開されている。

- ①小型モビリティ「高蔵寺ターレ」を人・モノ・サービスを満載して地域内を走らせる。
- ②「高蔵寺ターレ」の幹線部分はまちの資産であるペDESTリアンデッキをベースに整備する。
- ③この「ペDESTリアンデッキ」がまちの血管＝BIO TUBE となってまちを再生する。

この「高蔵寺ターレ」は、現在の単調なNTをぶち壊す新鮮な感覚にあふれている。

一方、住い方についても、下層は商業施設や生活支援機能が併設され、中間層にはオフィス、上階の住いは近隣住民が気軽に行き来できるソーシャルコレクティブ住宅、建物全体は複合型住宅棟となっていて、あらゆる世代に受け入れられる大変魅力的な提案に満ちている。

後半の意見交換では、受賞作品には日常生活感にあふれた提案が多いと、圧倒的に好評であった。またこのような貴重な提案を単にアイデアコンペで終わらせるのではなく、実現可能な提案は「リ・ニュータウン計画」に盛り込んで是非実現させてほしい、等の意見が出され、多くの参加者の共感を呼んだ。（寺島 靖夫）

高森山整備など意見交換 創生課と事務局メンバーが懇談

4月から春日井市ニュータウン創生課に着任された多和田課長への表敬訪問を兼ねて、7月11日、課長をはじめ創生課職員4名と懇談を行った。「どんぐりs」からは、事務局メンバー（杉山・寺島・長谷川・藤城・明賀）が参加した。

懇談内容は、①7月のどんぐりsカフェ（センター地区の未来を考える）の案内、②毎年の恒例となったすまい困りごと相談会の開催、③高森山整備の取り組み、④高蔵寺ハナモモ桃源郷の会の活動、⑤高森台地区集約事業と活性化、⑥旧藤山台西小学校の活用と西地区の活性化、⑦高蔵寺駅周辺の整備、など多岐にわたった。何かの結論を出すという性格の場ではなかったが、お互いの考え、情報交換ができ、今後につ

私の朝・昼・晩

日本の中の外国人

大相撲名古屋場所は千秋楽の結びの一番で鶴竜が白鵬との横綱対決を制し優勝した。久しぶりに登場した日本人横綱稀勢の里が引退してしまっただけでなく、相変わらずモンゴル人の活躍が目立つ。

テニスでは大阪ナオミが全豪オープン、全米オープンを連破し。陸上100mではサニブラウンが初の9秒台。バスケットでは八村塁がNBAのドラフトで1巡目指す。いずれも日本人初の快挙と報じられた。三人とも肌の色外見からは外人と見えるが日本人と外国人のハーフ。奇異な目で見られてきた“混血児”は“ハーフ”として容認されるようになった。

今年、日本で開催されるラグビーのワールドカップ日本代表メンバーの半数を外国人（帰化した人を含む）が占める。クラブチームならともかく、日本代表としてはいささか違和感をおぼえる。

一方、少子高齢化が進み労働力不足を補うには外国人を受け入れざるを得ない。急速に進むグローバル化にどう対応していくのだろう。

（森 健）

ながる有意義な会となった。（藤城 栄一）



仕切り（大相撲名古屋場所） 森 健

ハナモモ植栽地にイノシシ出没？

「高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会」（ハナモモの会）の会員からの話によると、7月9日、除草のためハナモモの植栽現場を訪れたところ、なんらかの動物が地面を掘り起したと思われる見慣れぬ跡を見つけたとの事。現場は高森台県有地内の高齢者福祉施設「どんぐりの森」敷地の外周道路に面した斜面。この春その周辺に木質チップを10センチ位敷きこんだ。そのチップを掘り起したものと思われる。跡は不規則に10メートルにも達している。3年ほど前には現場近くの高森台中学校付近でニホンカモシカが目撃され、また最近、現場近くでイノシシの目撃情報も寄せられている。いよいよニュータウンも野生動物が闊歩する自然豊かな？まことに変わりつつあるのか、話題になっている。

高齢者・すまい無料相談

●電話か又は直接面談会場にお越しください
☎080-4540-3553（どんぐりS事務局）

面接相談会日時：

8月11日（日）13：30～16：00

会 場：東部ほっとステーション

（サンマルシェ南館1階）

ハート・ほっと・ルーム開設

日 時：8月18日（日）、13：30～15：30

会 場：東部ほっとステーション

参加費：200円

当日受付。